

ロボット戦略 世界分散ファンド（愛称：資産の番人）の実質的な運用を行う 英国マン・グループ AHLのインタビュー記事が掲載されました。

情報提供資料

2018.02

2018年1月14日 日経ヴェリタス掲載記事より抜粋

人工知能（AI）の運用への応用は海外のヘッジファンドが先行する。業界をリードする1社で運用資産2兆円、CTA（商品投資顧問）大手の英マンAHLは2014年ごろからコンピューターを使った主力ファンドの一部でAIを使った投資戦略を組み込み、成果を上げている。ティム・ウォン会長に話を聞いた。

——実際の運用にAIをどう生かしていますか。

「相場の方向性にそって『買い建てポジション』や『売り建てポジション』を作り、収益を狙う主力ファンドでは、AIを活用した運用に資金を一部配分している。機械学習によって将来の値動きを予想し、自動的に先物や為替のポジションを構築する。売買発注時に証券会社が提供する複数の執行ストラテジー（アルゴリズム）をAIによって解析し、選択させる仕組みも入れた」

「AIの活用で実際に運用成績の改善が見られている。ただAIを使った運用戦略への資産配分は主力ファンドの純資産の数%にとどめている。当社は3～4年前から導入を始めたが、課題はまだ多い」

「最近になってAI活用をうたう運用会社が急に増えたが、マーケテ

インタビュー

AI活用し運用するファンド

成績は改善も「魔法」でない



英マンAHL会長
ティム・ウォン氏

Tim Wong 91年リサーチ・アナリストとしてAHL（現マンAHL）入社。13年までCEOを約10年務める。ロンドン大で統計学とオペレーショナル・リサーチの修士課程修了。

ィングの言葉として一人歩きしている印象をうける。当社はAIのもたらす運用手法の進化に興奮しているが、同時に現実も直視している」

——今、直面している課題は何ですか。

「まずデータ認識の問題がある。AIが人間の顔を識別するのはそこまで難しくない。あまり変わらないからだ。ただマーケットは刻々と変化する。中央銀行による量的緩和策が、いつどのように終わるのかとい

った思惑などノイズも多い。こうした環境のなかAIが運用成績の向上に有効なパターンを見つけるのは難しい」

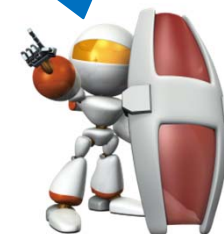
「データの蓄積はまだ十分とはいえない。米アマゾンでは顧客の購買データをかなり前から収集してきた。当社は約30年におよぶ取引データの蓄積が強みだが、金融界全体ではAI運用に必要なデータを集め始めたばかりだ。運用成績の向上にどのデータが有効なのかまだ分かってい

ない部分がある。AIは決して『魔法』ではない」

——人間が投資判断を行うファンドは将来、コンピューターが運用を担うようになるのでしょうか。

「すぐには起きない。AIの活用は始まったばかりだ。データのノイズを取り除く技術の開発などは人間の仕事だ。長い目でみれば運用業界の構造が変わり、人間の役割もそれに対応して新しいものになるだろう」

英国マン・グループのAHLは、1987年の創業以来、約30年、一貫してコンピュータープログラム（ロボット戦略）による運用を行っているよ。数学博士、物理学博士を含む金融工学研究者集団の運用会社だよ。僕のコンピューター運用実績を生み出している会社だよ。



ファンドのイメージキャラクター
資産の番人コンピューター「マモル」です。

●当資料はT&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。●当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。●投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。●投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。●購入のお申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断いただきますようお願い致します。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社にてご入手いただけます。